

防災について考えるために活用できる3つの番組

証言記録・東日本大震災 第74回 宮城県石巻市

希望をつなげ 壁新聞

放送日：2018年5月27日 放送時間：43分



東日本大震災で、一自治体として最も多い4千人が犠牲になった宮城県石巻市。石巻日日新聞は津波で社屋が冠水し輪転機も止まりましたが、手書きの壁新聞を避難所に届けると決断しました。記者たちは通信や交通手段も途絶する中、水につかって奔走し、今こそ地域に役に立つ情報を発信しなければならないと、手書きの壁新聞をはり出します。最初は記者たちが取材した被害情報をできるだけ詳しく載せましたが、壁新聞第3号を出すに当たって、これまでの内容をガラリと変えます。被災して不安な日々を生きる人たちの気持ちに寄り添い、少しでも希望が持てる情報を発信することを選んだのです。大規模災害時の正確な情報の大切さと、前向きに考えることの大切さについて考えることができます。

証言記録・東日本大震災 第58回 千葉県浦安市

液状化の衝撃 水と闘った1か月

放送日：2016年11月20日 放送時間：43分



市の3分の2を埋め立て地が占める千葉県浦安市は、東日本大震災で世界最大級の液状化現象に見舞われました。大量の泥が噴出し、道路は割れ、家は傾き、住宅街は無残な姿に一変しました。しかし、最も深刻な被害は、地下のいたる所で破壊された上下水道だったのです。約1万世帯が、断水ばかりか、下水の被害によりトイレも使えない日々を耐え忍びました。自衛隊の給水船派遣と、前代未聞の復旧工事に挑んだ延べ2千人の下水道のプロたちの必死の努力で、不可能と思われた1か月以内の復旧を実現しました。一方、再液状化を防ぐための地盤改良工事をめぐっては、住民間の対立も生まれました。都市型の災害であるライフライン被害に対する事前の備えと、支え合うコミュニティの人間関係の重要性について考えることができます。

クローズアップ現代+ 検証・西日本豪雨

～何が生死を分けたのか～

放送日：2018年7月31日 放送時間：25分



死者が200人を超え、平成最悪の水害となった西日本豪雨。大規模な浸水のために51人が犠牲になった岡山県倉敷市真備町では、亡くなった人の9割が高齢者。行政が避難情報を出すだけでは高齢者を救いきれないという、厳しい実態が見えてきました。また、最も犠牲者が多かった広島県では、4年前の土砂災害を教訓にさまざまな備えを進めていた地域でも被害が起きていたことが分かりました。

「これまで大丈夫だったから」という正常性バイアス、「みんなも逃げていないから」という同調性バイアスの危険性、避難勧告などの情報を正しく生かす姿勢の重要性、災害弱者を含めて守るコミュニティ防災の、現象後追い型から事前対応型への防災対策転換の必要性などについて考えることができます。



執筆者
鳴門教育大学
准教授 藤村裕一